

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公

公表：令和4年3月3日

事業所名 放課後等デイサービス・児童発達支援FreeDom

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		同じ空間(居室)に10名以上いることがないように活動を分けている。仕切りやパーティションも利用している。	
	2	職員の配置数は適切である	10		当日の利用者数に合わせて人員基準以上に職員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10		特性に応じた視覚提示をおこなっている。4つの居室を用途によって分けて活動している。	段差があるため歩行が不安定な利用者がある場合は工夫が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10		机、椅子などは使用したらその都度消毒をおこないおもちゃもこまめに消毒している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	3	日々の支援の振り返りは朝のミーティングでおこなっており計画の振り返りは児発管とリーダーで話し合い伝達している。	常勤スタッフは出来ているが非常勤スタッフには完璧にできていないこともあるので今後常勤非常勤共にできるようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		計画についての面談の際に事業所への意向なども確認し改善にとり組んでいる。	評価表の内容(表現)は保護者にとって難しいように感じるためわかりやすい内容(表現)に変更する。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		ホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	8		出来ていないので検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		外部研修への積極的な参加またその内容を他の職員へも伝達するなど内部研修も多く実施できている。	非常勤の事業所内研修内容の充足をはかり回数を増やしていく。スキルアップ目的。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		支援計画作成前には面談などをおこない事業所での様子や聞き取りをおこないニーズを確認した上で作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	7	現在は事業所が考案したアセスメントツールを使用している。	標準化されたアセスメントツール導入については検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		具体的な内容を記載するようにしている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		支援計画の内容をふまえてアプローチ方法などを決め統一して支援できるようにしている。	支援計画には書かれているが取り組めていないものもあるので改善していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		担当を決めてチームで立案している。同じ職員ばかりが担当にならないようにしている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		執着しやすい(固執化)利用者に対して柔軟性を養うために定期的にプログラムの変更をおこなっている。利用者の状況や季節に応じて様々なプログラムを取り入れている。	活動プログラムのレパートリーをふやしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		毎朝ミーティングで前日の利用者状況及び支援内容を振り返り改善点を話し合い当日の支援内容・職員配置・役割分担を決定しホワイトボードに記入している。野外活動時は担当職員を決めスケジュールを立案してもらい事前ミーティングをおこなっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	非常勤は参加できないので電子機器を使って参加できていない職員にも情報共有をおこなっている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			行動分析を主体とした記録内容に変更することを検討している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		会議内容により参加者を決めている。 (職員の育成も考慮したうえで。)必ず児発管か支援リーダーのどちらかは参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10		各関係機関とは定期的に情報共有をはかり必要に応じて会議を開催している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	9		該当利用者なし

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	9		該当利用者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		保護者に確認を取り承諾を得られれば会議や面談を開催し情報共有及び相違理解をはかっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		保護者に確認を取り承諾を得られれば会議や面談を開催し情報共有及び相違理解をはかっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	1	研修には定期的に参加し事業所間では情報共有をおこなっている。	助言や連携ははかれていないため機会があれば連携をはかしていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	9		出来ていないので検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	7	地域の事業所連絡会には毎月参加している。	自立支援協議会やこども子育て会議には参加していないので必要を感じた場合参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		送迎時や連絡帳で情報共有をはかり気になる点がある場合は電話など直接話す機会をもつようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	2	電話や面談時に自宅での支援方法などをお伝えして実践状況なども確認するようにしている。	事業所ではまだ実施できていない。面談時などに保護者に説明をおこなってる段階。今後も面談時に保護者に説明をおこない実施していけるようにし外部研修なども保護者に職員と一緒に参加してもらえるように話していきたい。
保	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		定期的に面談などをおこない家庭状況及び悩みなどの聞き取りをおこなっている。	相談しやすい環境を作っていくため定期的に行事として機会を作ることも検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	8		今後検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		迅速に対応し事業所だけでは解決・改善できない場合は関係機関と連携をはかり解決・改善に取り組んでいる。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	会報等はないが行事予定は毎月お配りしてブログにて活動内容などをお伝えできるようにしている。	今後研修内容やいろんな情報もブログなどでお伝えできるようにしていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	1		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		視覚的スケジュール提示(個人・集団)をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	9		小規模事業所の為当事業所での行事の開催は難しい。なので地域の行事に参加できるように検討していきたい。
非常時等の対	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10			今後マニュアルを新しく作成し保護者にも閲覧していただけるようにブログかホームページに掲載していくことを検討している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10			年に2回実施しているが回数・内容の充足をはかっていく必要がある。現在はコロナ禍で行くことができているが防災センターなどで体験していただけるようにコロナ禍が落ち着いたら再度レクリエーションにとりいれていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		契約時に聞き取りをおこなっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	6		該当利用者なし。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		報告書は作成しておりヒヤリハットが発生した場合は報告書を作成し当日又は翌日に共有している。	ヒヤリハットの報告件数がまだまだ少ないので今後増やしていけるようにする。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
対応	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		常勤職員は年に外部研修1回・社内研修1回を最低限おこない非常勤職員は社内研修1回を最低限おこなっている。 児発管やリーダーがよくないと思われる対応があった場合はできる限りその場で職員に状況説明と指導・助言をおこなっており、虐待の情報(記事)はミーティングなどで共有している。	研修の回数をもっと増やし内容の充足もはかっていきたい。 今後は不適切支援についても掘り下げて意見交換できるように取り組んでいきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。